

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

Vol.54

2016.JUL.

NPO法人 長野都市経営研究所

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1 丸本ビル2F TEL 026-235-7911 FAX 026-235-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail: nupri@nupri.or.jp

第22回 NUPRI 定時総会開催

魅力ある観光都市として長野の認知度が高まる中、多彩な事業展開を通じ「動くNUPRI」をアピール。

平成28年6月8日 ホテル国際21にて開催

6月8日（水）、第22回NUPRI定時総会がホテル国際21において会員102名のうち92名（うち委任状42）の出席により開催されました。

規定に従い、市川理事長を議長に、清水理事、愛甲会議員を議事録署名名人に選任後、平成27年度の事業・決算報告ならびに平成28年度の事業・予算計画が岩野事務局長から上程され、各議案とも出席者の拍手をもって承認されました。長野にとって、またNUPRIにとってもエポックイヤーとなった昨年度は、各事業が充実。行政機関のみならず地域の皆様からも大きな関心と期待が寄せられ、存在感を高めることができました。設立から22年を数える本年は「住み

良い元氣な街づくり」という基本理念を継承しつつ、観光母都市ながのの活動を基軸としてさらに多彩な事業を展開できるよう各自治体・各関係団体とも協調していくことを確認しました。

議事に続き、ライフネット生命保険株式会社会長兼CEO・出口治明氏の講演会を開催。一般来場者を含む約170名の聴衆を前に「数字で読み解く日本の未来」と題して硬軟取り混ぜた講話が展開され、講演後には様々な質問が寄せられました。

※講演内容を抜粋し、4ページ以降に掲載しています。

市川理事長 挨拶骨子



日頃、NUPRIの活動にご理解・ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

前年度は北陸新幹線の延伸、善光寺の御開帳、現在も放映中のNHK大河ドラマ「真田丸」等々たくさんさんのイベントがあり、それらを念頭に事業を展開

してまいりました。長野駅の発車メロディーに「信濃の国」を提供したのをはじめ「善光寺ゆかり隠れたるパワースポットめぐり」「りんごの木オーナー制度」「採れたて野菜市」「わいがやサロン」等、それぞれ好評を得ております。牛を先頭に和服姿の女性が表参道を善光寺まで華やかに彩る「門前まち花遊歩」イベントについては、大本願の鷹司誓玉お上人様から「非常に感動、毎年やっていただけないか」とのお話もいただき、NUPRIの活動が多くの方々に理解され、また大いに期待されていることを実感している次第です。経営面は少しずつ好転しているものの、厳しい状態が続いておりますので、今後も行政の支援金活用や、他団体との協働事業にも積極的に取り組んでいく所存です。

NUPRIは今年で22年を迎えます。NPO法人としていっそうの存在感を示せるよう引き続き皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

平成28年度事業計画

活動方針

NHK大河ドラマ「真田丸」や諏訪の御柱祭によって信州に注目が集まる中、NUPRIとしては前年度と同様『観光』に基軸を置いて多様なチャネルから長野の街の活性化に取り組み、一人ひとりが主体者となって盛り上げていきたいと考えます。各部署の既存活動の充実と拡大を図るため長野市、長野商工会議所、(株)まちづくり長野、(財)ながの観光コンベンションビューロー等、自治体、関係団体とも連携して共同事業を提案。「動くNUPRI」の存在感を高めると同時に、会員増強を目指してプロモーションビデオの活用、案内パンフレットの配布等、目に見える形でのPRにも努めてまいります。

平成28年度部会・活動部会の事業計画

1 観光母都市ながの部会

〈部会長／市村次夫・副部会長／夏目潔・掛谷嘉則〉

(1) 基本方針

〈発表／掛谷副部会長〉



今年度の新たな取り組みとしては、長野観光の拠点・善光寺の「隠れた歴史」を掘り起こし、

その奥深さを県内外に発信。好評の「善光寺ゆかり隠れたるパワースポットめぐり」を継続し、観光客の底上げを図ります。また、長野の観光経済を長期的に考え、郷土食の開発や観光ボランティアの育成等にも取り組んでいきます。

ア.『善光寺の知られざる歴史の掘り起こし』の取り組み

7世紀後半に創建された善光寺。地元の人にもあまり知られていない奥深い歴史を掘り起こすことで、さらなる観光客の誘致に繋がります。善光寺や観光諸団体と協働による冊子の発行、また講演会等での発信を検討しています。

イ.『善光寺ゆかり隠れたるパワースポットめぐり』事業の継続

昨年度の活動の柱として行ってきた本事業は、善光寺の隠れた魅力を再認識し、愛着と誇りを強めていただくことが目的。永続的に取り組むべく、現在のガ

イドブックを継続活用し、新たなパワースポットの探索と情報発信、観光ガイド案内の実施等にも取り組んでいきます。

ウ.大河ドラマ『真田丸』放送に合わせた観光強化

歴史的背景を求めて訪れる観光客をターゲットに、ドラマの舞台となる長野・松代はもちろん、善光寺参拝を軸に据えた地域全体の活性化を目指します。タクシー会社やレンタカー会社と連携し、独自の観光ルートを企画。ながの観光コンベンションビューローとも連携し、HP等の活用も提案します。

エ.従来からの懸案課題への取り組み

①新たな郷土食の魅力開発・水資源のPR
滞在型観光に食の魅力は欠かせないことからB級グルメを含めた郷土食、山菜等の自然食の魅力のほか、豊かな自然が生み出す「水」についてもPRを強めます。

②季節の魅力発掘

スキーに限らず、夏の高原トレッキングや野鳥観察、秋の紅葉やりんご狩りなど四季折々の多彩な観光を提示します。

③観光ボランティア育成への協力

NAGANO検定実行委員会へ活発な意見具申を行い、観光ガイドの育成に協力。長野市善光寺表参道ガイド協会と連携し、語学研修等にも協力していきます。

(2) 門前まち花遊歩活動

〈発表／鈴木理事兼事務局次長〉

今年度は、5月4日に「門前まち花遊歩」牛に引かれて善光寺参り」を開催。東京からの参加者10名を含め、60名の着物姿の女性



が表参道を彩りました。今回は須坂市と連携した周遊コースを設けたことで、少々ハードな日

程ではあったものの、普段知ることのできない伝統文化に触れられたと好意的な意見が寄せられました。当日の模様は各メディアでも取り上げられましたが、今後はより効果的にPRを行い、魅力を発信していきたいと考えています。

(3) ここ掘れ！長野調査隊活動

〈発表／電野理事兼調査隊長〉



6回目となる本年度は、大河ドラマ「真田丸」で脚光を浴びる松代を取り上げ、松代歴史遺産

めぐり」と銘打ったバスツアーを企画。好評だった前回プランを踏襲して一般市民の参加も募り、地元観光ガイドの案内も入れて初秋に実施する予定です。活動についてはマスコミにもリリースし、多くの市民に長野の隠れた魅力を発信して共有化を図ります。

(4) 中心市街地活性化活動

〈発表／清水理事〉



長野商工会議所の「中心市街地活性化協議会」が掲げる①訪れたくなる街、②住みたくなる街、

街、③歩きたくなる街、④参加したくなる街、4つのコンセプトの中でNUPRIとしては③歩きたくなる街をメインに据えて活動。

須坂長野東インター北側や千曲市屋代の大規模商業施設計画、また権堂アーケード・イトーヨーカドー周辺の再開発計画の動向等も注視し、情報収集に努めています。

(5) BCD (Business Continuity Plan / 事業継続計画) の研究

〈発表／掛谷理事〉

東日本大震災や熊本地震から学んだ、防災に強い街づくりの重要性を再確認。農村部や高齢者の多い長野の特性を鑑みつつ、大災害時においては地域住民と企業の連携が復興の要となることを周知徹底していきます。地域の安全性は観光客誘致にも欠かせないことから、BCPについても諸団体と連携し、NUPRIの活動の一つとして継続していきます。

2 わいがやサロン活動部会

〈部会長／岩野彰 副部会長／鈴木隆治〉

〈発表／岩野部会長〉



NUPRI活動の核である「わいがやサロン」は、昨年度末までに56回実施。回を重ねる

毎に充実し、会員にとって有意義な勉強の場となっています。4月2日にはNHK大河ドラマ「真田丸」のチーフプロデューサーの屋敷陽太郎氏をお招きして今年度第1回のサロンを開講、7月2日には「真田丸」の時代考証を担当する平山優氏からお話をお聞きする予定です。一方、無料のスマホ用アプリ「松代まち歩きナビ」を開発。会員の方にもぜひ利用していただき、ドラマの舞台である松代、ならびに長野を盛り上げていただきました。

と思います。

3 シティプロモーション活動

〈発表／松本理事兼

長野市シティプロモーション実行委員〉



定住人口・観光交流人口の増加を図り、「長野に住みたい」と憧れられる魅力ある街を目指す

すことが本活動の出発点。住民が誇りと愛着を持てる街にするため一人ひとりが責任や使命を自覚して行動する「シビックプライド」を基本に、「おもてなし」の心を育む教育こそが地域活性化の原点と捉えています。時間のかかる地道な活動ですが、心の通った教育による「人づくり」にも尽力していきます。

4 スポーツ振興活動部会

〈部会長／鷺澤幸二〉

(1) AC長野パルセイロ及びレディース

チーム支援活動

〈発表／鷺澤理事〉



前年度、AC長野パルセイロはJ3リーグで3位となり、J2昇格の夢は今年度を持ち越さ

れました。ホームゲームの観客動員数は1試合平均4,716人と大幅に増加。今年に入っては4,900人前後を推移し、あとは今季の成績次第となっています。レディースチームは、前年度でしこ2部リーグで見事優勝

し、地域に元気を与えてくれました。今年度は1部リーグに参戦し、注目度は格段に増しています。さらに、関心が高まっているバドミントンの応援、普及活動にも力を注ぎ、スポーツを通じて地域活性化に資する活動を推進していきます。

(2) 「NAGANOウィンターフェスティバル」誘致活動

〈発表／霜田理事〉



今年度は「冬季ユースオリンピック」から「NAGANOウィンターフェスティバル」へ誘

致活動の軸足を移し、長野市を主体とした各関係団体と協力しつつ前向きに関わっていきます。具体的な日程等は未定ですが、エムウェーブ等の既存施設を有効利用できる誘致に努めていきます。

(3) 地域野球クラブの「信越硬式野球クラブ」の応援活動

〈発表／長門会員〉



「都市対抗野球大会」で名を馳せた名門「信越硬式野球クラブ」。平成11年

から地域クラブに変更、市内各企業から選手を集めて組成する「地域野球クラブ」として話題となりました。昨春のJABA（日本野球連盟）長野大会では見事優勝し、秋の日本選手権に出場。また、今シーズンも都市対抗野球大会北信越2次予選で優勝し、2年連続8回目の本大会出場（東京ドーム）を決めました。今年は、NUPRIとしても一段と応援活動を強めていきます。また、社会貢献の一環として少年野球活動にも協力してい

ます。

5 新産業創出部会

〈部会長／竹内伊吉・副部会長／掛谷嘉則〉

(1) 基本方針

〈発表／竹内部会長〉



産学共同による新産業創出を研究し、地域の農業特性を活用して事業化を推進。今年度は従

来の生産者から消費者への直接販売の検討、事業化に向けた企業との連携・調査等を実行したいと考えます。また、団塊世代の余暇時間の増大等を考慮し、滞在型観光の視点から農業を地域資源と捉えて提案していきます。

(2) 採れたて野菜市の継続、拡大

「採れたて野菜市」の一番の特長は「新鮮さ」と「健全な栽培」。さらに、生産農家と地域住民や観光客との繋がりが深まる、対面販売ならではの「コミュニケーションの場」としての役割にあります。今年度は野菜レシピのデータベース化等のサービス、野菜が少なくなる冬期の加工品販売なども検討していきます。

(3) りんごの木のオーナー制度の継続と合わせて「農業法人化」の研究着手

好評の「りんごの木オーナー制度」を継続するとともに「信濃三兄弟」のさらなる拡大を目指します。17回目となる今年度の収穫祭には県内外から約130名のオーナーが集まる予定で、りんごの生産過程等の理解を深めていただき、オーナー制度の質を高める考

えです。一方、生産農家の宮本さんの負担が大きいことから周辺農家への拡大、飯綱町との連携も検討。農業従事者の高齢化が進む中、「農業法人化」についても検証し、具体化を図ります。

(4) 自然農法の研究、啓蒙

前年度同様、自然農法を実践している部会メンバーの協力を得て、一緒に勉強し、地域おこしに結びつくよう行政への働きかけをしていきます。

(5) 中山間地の活性化

中山間地の活性化に向けて提言を行うとともに、自然農法のノウハウを活かした農業の収益増等、具体的な施策と計画を作成していきます。



NUPRI 講演会

「数字で読み解く 日本の未来」

講師 出口 治明氏

講演会では、時の経営者としてテレビをはじめ様々なマスメディアで紹介されてきたライフネット生命保険株式会社会長の出口治明氏が登壇。日本が直面する問題とその解決法について多岐にわたる資料とデータの数字から分析し、具体例を挙げながら解説されました。一般公開で行われ、会場では熱心にメモを取りながら耳を傾ける方の姿も見受けられました。

■スタートは世界をきちんと見ること

皆さんは長野で、あるいはNUPRIで日々活躍されていらっしゃると思いますが、自分の住む町や自分の仕事、職場についてはよく理解されていますよね。人間は誰でも周囲の世界を理解している動物。でも、それだけではなく、人間は向上心を持っていますから、どんなに良い町でも、良い職場でも、これで百点満点だと満足することはない。何かしら不満があつて、もっと良くしようとか、変えていこうと思われているのではないのでしょうか。いわば、皆さんは周囲の世界を経営したいと思っているわけです。

では、この世界をもっと良くするために何をすればいいか。最初にすべきことは、世界をきちんと見ること。でも、人間の脳は見た

もののしか見ない、あるいは見たいように世界を変えて見てしまう、そういうふうになっています。記憶ですら、自分の都合のいいように変換してしまうのが人間の脳なので、世界をきちんと見て、きちんと理解するには確かな方法が必要となるのです。

■タテ・ヨコと、数字・ファクト・ロジックで考える

世界をきちんと理解するための方法論。そのひとつは、タテ・ヨコ思考で見ることです。タテは昔の人はどう考えたか、ヨコは世界の人はどう考えているか、これで世の中のいろいろなことが分かります。

たとえば、夫婦別姓の問題。僕は歴史の授業で源頼朝と北条政子が夫婦だと教わったので、昔の日本は夫婦別姓だったと理解しました。そして現在、世界の中で夫婦同姓を法

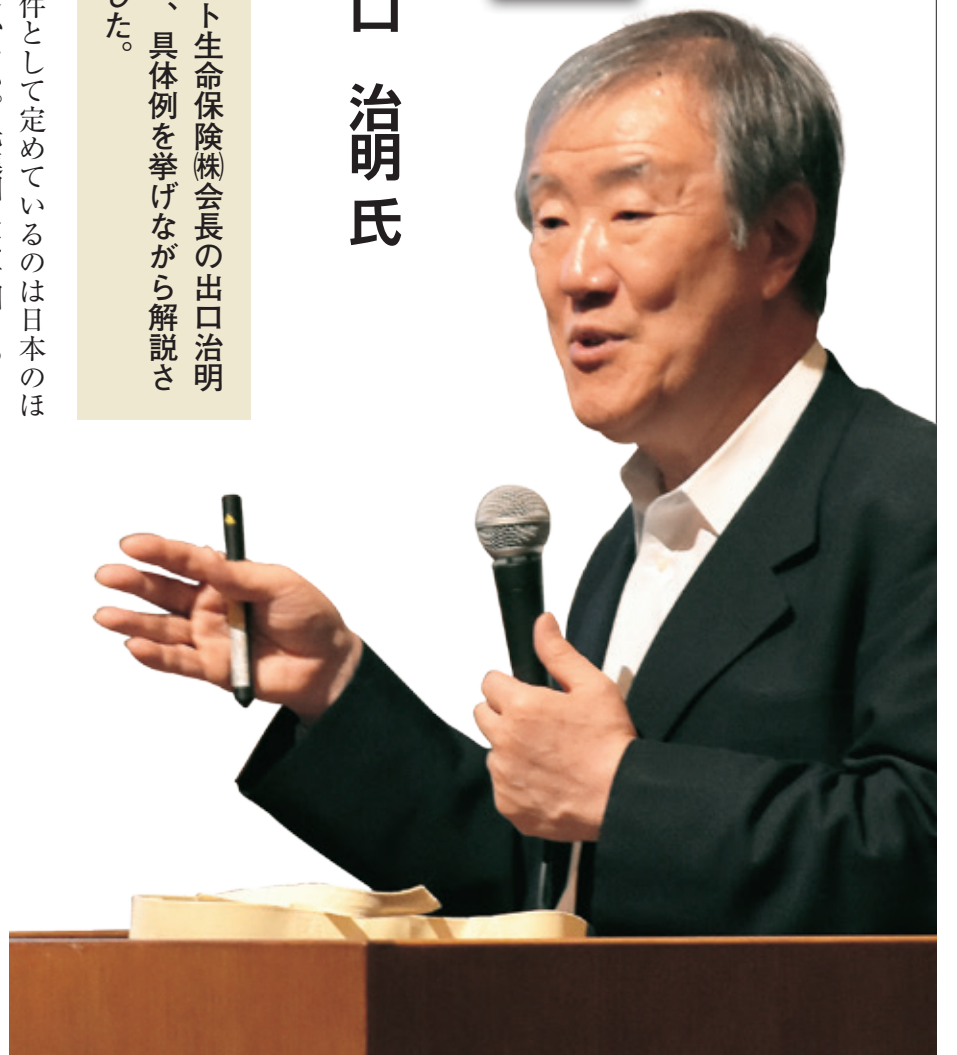
律婚の条件として定めているのは日本のほか数ヶ国しかない。先進国には一国もありません。このようにタテ・ヨコから見ると、夫婦同姓を当然とみなす今の日本がちよっと特異であることが分かってきます。

もうひとつの方法、それは数字・ファクト・ロジックで見ること。つまり、データで見るのが大事になります。

今、世界は不況と言われています。世界経済についてはIMFという国際機関が各年の見通しを出していますが、今年4月の発表によると、世界の今年の成長率はおおよそ3.5%。リーマンショック前、中国やインドが元気の良かった2005年くらいには4%を超えていましたが、70年代から30年間ほどの平均成長率を見ると3.4%ですから、この数値は普通の成長率と言えます。内訳を見ると、先進国は1.9%で新興国が4.0%。さらに、先進国を詳しく見れば、アメリカが

【出口 治明氏 プロフィール】

1948年三重県生まれ。京都大学卒業後、1972年に日本生命保険相互会社に入社。生命保険協会の初代財務企画専門委員長として金融制度改革・保険業法の改正に従事し、同社ロンドン現地法人社長、国際業務部長などを歴任。退社後、2008年にライフネット生命保険株式会社を開業し代表取締役社長に。2016年より現職。無類の読書家、また大の歴史好きとしても知られる。著書には「生命保険入門 新版」「直球勝負の会社」「『全世界史』講義 I. II」「日本の未来を考えよう」等多数。



2.5%、ユーロが1.5%、日本は0.5%。ということは、先進国の中で日本だけが成長していないのです。昨今、アベノミクスは成功したか否か、いろいろと議論されていますけれど、この数字を見たら一目瞭然。結果としてはうまくいっていない、それが偽らざる日本の現状です。

最近情報はありすぎて、何を見ればいいのか分からないと言う人もいます。でも、日本の成長率は先進国グループの中の数字と比べたら、すぐ分かりますし、所得の伸びも財布の中を見れば分かります。昔から今に至るまで本当に必要な情報はそれほど多くはありません。『木を見て森を見ず』という言葉がありますが、重要な数字を見なければ、経済問題も大体は把握できるのではないのでしょうか。

■少子化対策にはシラク3原則を

日本の未来をこの2つの方法で見るとどうなるか、まず少子化問題から考えてみま

しょう。過日、日本の出生率が1.46に上がったという記事を目にしましたが、将来的に人口1億人を維持するためには1.8は必要と言われています。かなりの難題ですが、同じ先進国の中でフランスはかつて1.6だった出生率を、10年ほどで2.0にまで回復させました。出生率回復のためにフランスが行った政策は「シラク3原則」と呼ばれる、実にシンプルなものでした。

第1原則は、子供を持つても新たな経済負担が生じないようにすること。これで、女性には年齢に関係なく、産みたい時に産めるようになりました。

第2原則は、義務教育同様、義務保育にすることで、待機児童をゼロにしたのです。

第3原則は、育児休暇から復職した際、ずっと勤務していたものとして元のランクで職場が受け入れること。ポストや賃金の心配がなく、復職できるようになったのです。日本でも、こうした3原則を法律で定めれば良いと思います。それと同時に、婚外子に対する差別をなくすることも重要。フランスでは5割以上の赤ちゃんが婚外子ですが、それをふしたらと蔑む人はいない。数字で見ると、日本の女性性は29歳くらいが初婚の平均年齢で、第1子出産の平均が30歳。でも、他の先進国では26歳か27歳で第1子を産み、29歳くらいで結婚するというのが一般的です。かつて日本でもそういう時代がありました。実は「できちゃった婚」が婚姻のグローバル

スタンダードなんです。婚外子への差別・偏見をなくすることも少子化対策の大事なファクターと言えます。

■高齢化対策では定年制廃止を視野に入れて

次に、高齢化について見てみましょう。先進国の中で一番高齢化が進んでいる日本にとつて、安倍首相が掲げる「介護離職者ゼロ」は大変良い政策です。基本に戻って介護の定義は何かというと、平均寿命から健康寿命を引いたもの。健康寿命というのは自分でトイレに行けるということです。つまり、介護をなくそうと思ったら、上がる一方の平均寿命に負けないくらい健康寿命を上げること。そうすれば、介護は楽になります。

では、健康で寿命を延ばすにはどうすればいいか、10人の医者に訊いたら10人全員から同じ答えが返ってきました。それは「働くこと」。人は仕事に行くと思うから朝起きて服を着る、髪を整えてヒゲも剃る。女性なら化粧もするでしょう。働く意欲が人を元気にするので。となれば、取るべき政策は一つ、定年制の廃止です。そして、年功序列ではなく同一労働・同一賃金にすることです。若い人の中には、そんなことをしたら自分たちの仕事が無くなると心配する人もいます。でも、団塊世代の人口を考えたら、何もしなくても2030年には800万人労働力が足りなくなる。定年制を廃止したくらいで働く場は無くなりません。数字を見れば、そうしたことがちゃんと分かります。

日本が皆年金制度を完成させた1961年は、11人以上で1人の高齢者を支えていました。ところが、その後支える方の人数が減り続け、2人を割り込むとしていきます。これを、世代間の不公平とか言って騒ぎ立てる人もいますが、それは問題をすり替えている



ンスでは5割以上の赤ちゃんが婚外子ですが、それをふしたらと蔑む人はいない。数字で見ると、日本の女性性は29歳くらいが初婚の平均年齢で、第1子出産の平均が30歳。でも、他の先進国では26歳か27歳で第1子を産み、29歳くらいで結婚するというのが一般的です。かつて日本でもそういう時代がありました。実は「できちゃった婚」が婚姻のグローバル



だけ。高齢者が悪いのでもなく、若者が被害者なのでもありません。ヨーロッパでは既にやっていることですが、真っ先にやるべきことは税制を所得税から消費税に換えること。高齢者にも負担してもらって、公平な社会を作るべきです。アメリカは所得税中心ですが、それは人口が増え続けているからです。このようにタテ・ヨコ、数字・ファクト・ロジックで考えると、いろいろなことがよく分かってきます。

■競争力をつけるためには

今、所得は下がっています。国の経済がうまくいっていないから、それは仕方がありません。そもそも日本の国際競争力が落ちています。日本のGDP（国内総生産）は世界で3番か4番の大きさですが、国際競争力を見ると昨年は27位、今年はひとつ上がって26位。これをGDPと同じくらいの順位まで上げねばなりません。



では、どうすれば上がるのか。皆さんの仕事に置き換えて考えてみてください。たとえば、これまで5時間かかっていた仕事があるとして、それをもう一度よく考え、工夫して、4時間でできるようにする。それで初めて生産性が上がるのです。競争力をつけたり、生産性を上げるには、人と違うことを考える。今までの自分とは違うことを考える。それしかありません。

人と違うことをして成功した例をひとつ紹介しましょう。5年前にオープンした、とあるラーメン店ですが、今や店舗は4つに増え、ミシランにも掲載されるほどになりました。なぜそれほど競争力がついたのか、店主の話では「東京のおいしいラーメン屋の食べ歩きをして気づいたんです。味はいいが、どの店も入っている客は男性ばかり。もっと女性客を取り込めば売り上げは伸びるはずだ」と。そこで、奥さんと協力して野菜たっぷりの「ベジそば」という女性向けメニューを作った。パブリカを練り込んだ麺にムール貝の塩だれと人參のピューレを混ぜたスープが特長で、これが美味しいとミシランに載ったんです。それと、この店ではお客さんに紙エプロンが配られるのですが、これも女性はラーメンが嫌いなんじゃない。汚れたり、スープが服に飛ぶのが嫌なんだと気づいて工夫したんですね。

このラーメン店の例を見ても分かりますが、生産性を高めて競争力をつけるためのイノベーション（技術革新）というのは、少数の天才の発想から生まれるわけではありません。ラーメンもムール貝も人參も、みんなが知っているもの、既に出回っているものです。90%以上のイノベーションは、そうした既存のものをうまく組み合わせることで成功しているのです。

■日本、そして長野の未来はどうなるか

日本の国際競争力アップの話に戻せば、国としてやるべきことがたくさんあります。たとえば、空き家の問題。全国にはおよそ900万戸もの空き家があるのに、それを有効に活用しないで、新しい住宅を建てることばかりを奨励している。住宅ローン減税の前に、余っている空き家のリフォームや建て替えを優先すべきではないでしょうか。

農業の振興もそう。現在、世界の農業輸出額の第1位はアメリカですが、第2位は日本の九州よりも小さいネーデルランド（オランダ）です。成功した要因は、徹底した市場開放と土地の集約化。これを見習って荒田をもう一度甦らせて効率的な農業を推進すれば、中国などにどんな輸出ができる。国全体の競争力をもっと上げられると思います。

イノベーションを起こすためには、まず世の中のいろいろなことを知る必要があります。そのためには勉強するしかありません。豊かな発想は、日々の勉強からしか生まれないのです。大人の勉強とは、たくさんの人と会うこと、たくさんの本を読むこと、たくさん現場に行くこと。勉強しない限り、いい仕事はできないのです。でも、残念ながら思うようには勉強できないのも事実。そこで、ダイバーシティという発想が重要になる。人間ひとりの知識は偏っていたり、限られていたりしますが、多様な人材が集まれば、たくさんの方の考えやたくさんの方の知恵が飛び出し、活発に議論できるのです。

そういう点から見ると、長野は発展するバググラウンドが備わっています。都市を見て、長野がある、松本がある、上田

がある、飯田もある。一極集中じゃないでしょう。それぞれが考えて、いろいろな意見を言い合える分、いいアイデアが出るはず。これからは長野県のようなところがますます伸びていくと思います。

